
お年玉袋

色

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お年玉袋

【Nコード】

N9485P

【作者名】

色

【あらすじ】

正月といえば

参拝、おせち、お年玉。

毎年のありふれた日常

新しい年が始まった今、何をしていますか。

「俺は夢に向かっているぜ」とか、「いつも通りだよ」感じ方もそれぞれです。

私は正月を実家に帰り家族と過ごしました。

やはり久しぶりに会うと少し落ち着きますよね。

大家族や核家族、今では多くの家族構成がありますよね。

私の家は大家族にあたると思います。

正月になれば親戚が来て挨拶。

なんてのが恒例行事で、まだ二十歳じゃない私は叔父や叔母からお年玉をもらいました。

親戚が多いことに感謝する時ですよ。

多い人は解ってもらえると思います。

色君へ（本名カット）と書かれたお年玉袋を渡してくれます。

社交辞令というのでしょうか。

「そんなんわるいです。」

「ええからもとけ。」

などと遠慮しつつもらう私。

毎年と何ら変わらない正月。

三日の昼頃帰ろうとしたとき母が私におばあちゃんからのお年玉をくれました。

去年ぐらいいからベッドの上での生活が多くなりがちだったおばあちゃん。

毎年キャラクターの絵もないシンプルなお年玉袋に達筆な字で色へ

書かれていました。

ですが、今年は違っていました。

母がお年玉袋を渡すとき、

「おばあちゃんが失敗してごめんな。やて。」
と私に言いました。

何のことか理解出来ずお年玉袋にはそこに何が書いてあるのか初めて見た人なら解らないであろうぐらいの字が書かれていました。毎年もらっている私はそこになんと書かれているかすぐに解りました。

よく見ると何度も書き直したのか、消しきれず鉛筆の跡がありました。

私はただ、

「ありがとう」

とお礼を言いました。

「そうか、氣いつけていきや。」

母の言葉の後、私はポケットにお年玉袋をいれ家を出ました。

変わらないかと思っていても変わっていく。

小学校の頃に遊んだ公園や絵描き屋というお好み焼き屋も今はなくなっていました。

今年は何があるのだろうか。

いいことがあるだろうか。

目標は見つかるだろうか。

夢は叶うのだろうか。

後何度年を越せるだろう。

駅のホームで私は一人かじかむ手をポケットで暖めながら電車を待っていました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9485p/>

お年玉袋

2011年1月8日21時20分発行